

2022 年度

豊橋市青少年センター事業報告書

指定管理者

認定特定非営利活動法人 愛知ネット

I. 2022年度の目標

指定管理12年目となる。過去の実績を基盤に、安心安全な環境づくり、より利用しやすい施設運営、魅力的な講座イベントの企画、積極的な情報発信等に努め、市民に愛される社会教育施設を目指す。また、当センターの本来の設置趣旨である「青少年の健全育成」に努め、青少年団体の活動を支援する。新型コロナウイルス感染の影響が予想されるが、感染対策を徹底した上でより多くの市民に安心して利用していただけるよう努める。

(1) 魅力的な自主事業の実施

- 利用者ニーズに即した事業を企画し、発信や応募方法を工夫する。
- 新たな視点での取組みをし、シルバー人材を有効に活用する。

(2) 新たな利用者の開拓

- 近隣大学で直接に学生にセンターの活動の紹介や参加を呼び掛ける。
- センターフェスティバルで様々なイベントを実施し、参加することによって周知する。

(3) 青少年健全育成の推進

- 青少年団体の活動を紹介したり、発表したりする場を設定する。
- 青少年団体の連絡会を開催し、情報交換や確認事項を共有する。

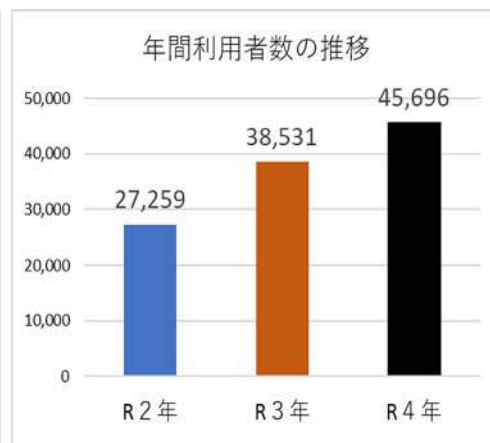
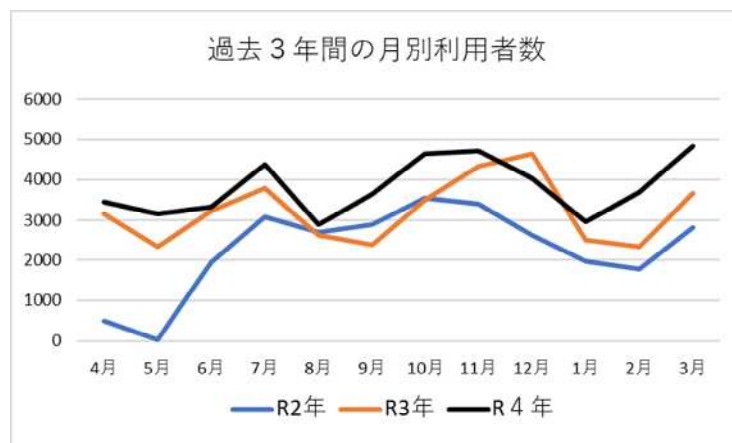
<数値目標>

- | | |
|------------|----------------------------|
| 1. 利用者数 | 48,000人 (2021年度実績 38,531人) |
| 2. 講座等参加者数 | 1,800人 (2021年度実績 1,403人) |

II. 2022年度の実績

1. 施設利用者数

	2020年度	2021年度	2022年度				
	実績	実績	実績	目標	達成率	他施設使用	合計
利用者数	27,259人	38,531人	45,696人	48,000人	95.2%	2,748人	48,444人



2022年度の利用者数は45,696人で、達成率は目標の48,000人の95.2%であった。

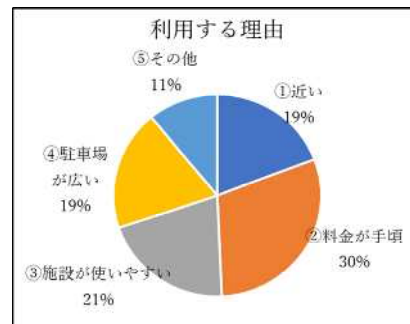
前年度と比べると118%で6,899人増となった。3年間続いた新型コロナウイルス感染の影響が徐々に少なくなっているようだ。ただ、コロナによる変化だけではなく、環境整備に取り組んだり、職員の接遇を向上させたり、魅力ある講座やイベントを企画したりした効果もあったと思われる。

施設別の利用者数は下表のとおりである。

中央棟	研修棟	宿泊棟	運動広場	合計
32,047 人	9,723 人	193 人	3,733 人	45,696 人

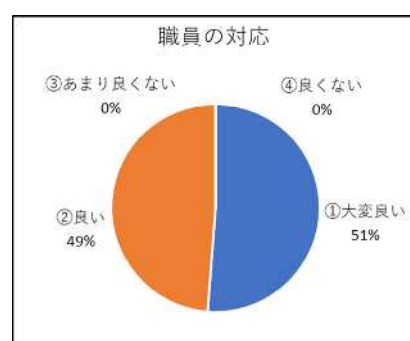
体育室を有する中央棟の利用が最も多く、全体の7割を超える。一方、宿泊は2月、3月に続けてご利用があったものの、年間を通してコロナ感染を危惧したためか利用は限定的となった。

2022年9月に実施した利用者アンケート(団体用)の結果、利用回数については、年間に20回以上利用している方が半数以上を占めている。リピーターが圧倒的に多く、定期的な利用が多いことが分かる。



また、利用する理由は、「料金の手頃 (30%)」が最も多く、「使いやすい」、「駐車場が広い」、「近い」の順となっている。建物としては古い使いやすい施設と感じているようである。

職員の対応については、「大変良い」「良い」合わせて100%であり、概ね良好のようである。、安心して気持ちよく使ってもらえる施設を目指して日々努力をしていることが、少しずつ結実していることを実感している。



ちなみに、施設利用者に加え他施設使用 (ほっとプラザ西+若者サポートステーション+病児保育室つぐしの施設利用) を加えると目標の48,000人を超える。

2. 講座等参加者数

	2020年度	2021年度	2022年度		
	実績	実績	実績	目標	達成率
参加者数	713人	1,403人	2,125人	1,800人	110%

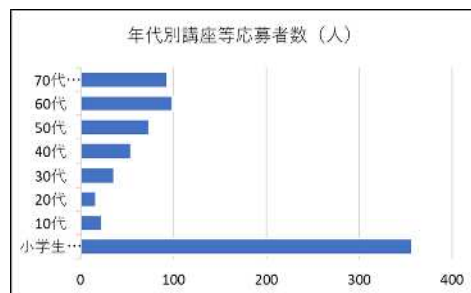


2022年度の講座等の参加者は延べ2,125人であり、前年度と比べて722人増えた。目標の1,800人を達成することができた。

計画した45のイベント・講座のうち4つを中止にした。コロナの感染拡大防止のために中止したのは青年団協議会主催の「青年フェスティバル」のみであり、シルバー人材センター企画の「昔あそび」と「竹細工」はセンターフェスティバルの内容変更のため、「豊橋のまちなかを知ろう」は応募者が少なかったために中止とした。

	2020年度	2021年度	2022年度
計画数	29	43	45
中止数	14	6	4
実施数	15	37	41
(うち一部実施)		(2)	

年代別の講座等応募者数を見ると、小学生が圧倒的に多い。小学生対象、親子または三世代対象の講座が 15 あったためである。40代以降の応募が多いのに比べて、10代20代の応募が少ないのが課題である。

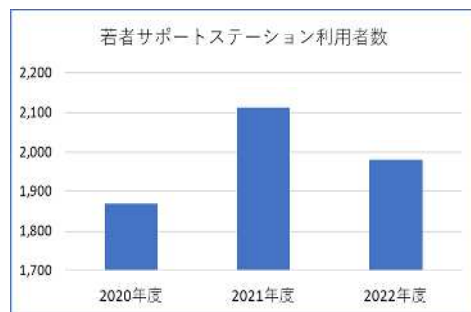


Ⅲ. 関連団体施設利用者数

1 若者サポートステーション

若者サポートステーション 年間利用者数			
	2020年度	2021年度	2022年度
利用者数	1,869人	2,113人	1,980人
前年度比	72.4%	113.1%	93.7%

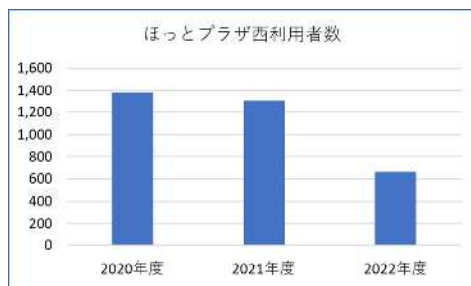
前年度は利用者数がやや回復したが、今年度はやや減少した。



2 ほっとプラザ西

ほっとプラザ西 年間利用者数			
	2020年度	2021年度	2022年度
利用者数	1,381人	1,304人	663人
前年度比	96.8%	94.4%	50.8%

在籍者数の減少や指導内容の変更によって利用者数が半減している。



3 病児保育室つくし



本年度4月から始まった病児保育つくしの年間利用者数は108人、月平均9.0人であった。カゼやインフルエンザが流行する冬季に利用者が多いということはない。

Ⅳ 収支状況

2022年度収支状況

単位：千円

期	収入	支出	差額
第1四半期	10,541	9,684	857
第2四半期	10,590	10,480	111
第3四半期	10,497	10,040	457
第4四半期	10,510	10,136	374
公租公課		1,799	-1,799
合計	42,138	42,138	0

電気料金、燃料代をはじめ物価の高騰が経営を圧迫しているが、利用者へのサービスを低下させることなく、経費の節減に努めた。具体的には消耗品等の無駄を極力なくし、軽微な修繕はできる限り職員

作業によって対応した。また、業者への依頼も内容をよく精査して交渉したり、業者を吟味したりすることによって支出を抑えた。

V まとめ

1. 利用者の復活

3年間続いた新型コロナウイルスの影響が次第に少なくなり、コロナ禍前の状況に戻つつある。今年度の利用者数は45,696人で、コロナ禍前の2019年度の44,768人を超えた。団体利用、個人利用、講座イベントへの参加は順調に増えているが、宿泊利用は193人で3年前の287人には至らなかった。ただ、これまで宿泊利用のなかった団体が1度利用したのち再度利用するケースも見られるようになった。少しでも気持ちよく利用してもらえるために宿泊室や厨房の整頓や備品の整備に力を入れたことが、リピーターを呼び込む一因となっているようだ。

政府が「3月13日からマスクの着用は原則個人の判断」というガイドラインを示し、「5月8日から5類に移行」されることになったため、今後はさらに利用が増加することが予想される。

当センターを利用する理由として、「料金が安い」「駐車場が広い」などをあげる方が多い反面、来館者から「こんな施設があったんだ」とか「近くに住んでいるけど知らなかった」という声も聞かれる。今後はさらに情報発信の方法を工夫していきたい。

2 利用者の利便性向上

2021年度からフォームからの講座申し込みの運用を始めて今年で2年目である。パソコンやスマートホンの普及により利用者が増え、今年度は52%の方がインターネットから申し込んだ。利用者にとっては時間に関係なく申込みができるメリットがある。以前は主に電話で受け付け、しかも先着順で参加の可否を決定していたため、朝は仕事の都合で電話をかけられない

	申込み方法			
	HP	電話	窓口	合計
2022年度	442人	332人	73人	847人
	52%	39%	9%	
2021年度	336人	405人	21人	762人
	44%	53%	3%	

という人が不利になることがあった。現在は先着順ではなく抽選で決めるので、公平な選考ができる。主催者にとっても申込者への連絡が容易であるというメリットがある。もちろん、パソコン等が使い慣れていない人のために、電話や窓口対応を継続する。

3 老朽化した施設のメンテナンス

築50年が経過し、施設設備の老朽化が顕著になっている。特に水回り、電気関係の不具合が目立つ。トイレのフラッシュ弁の劣化をはじめ、樹木の根の入り込みに起因する排水管の詰まりも発生した。業者によって何度か修繕工事を行ったが完全には改善されていない。換気扇の取替工事や雨漏りの修理など様々なメンテナンスを行ってきたが、最優先事項は当然なことで利用者の安全確保である。消防設備点検や公共建物検査の結果を受け、非常照明灯、非常用バッテリー、火災感知器の交換や防煙扉の修理を行った。また、懸案だった中央棟防火シャッターの修理については生涯学習課で対応していただいた。